

# 一から学ぶ海ごみ講座 開催しました！



- 日時 令和2年1月18日（土）10：00～12：00
- 会場 観音寺市有明浜
- 講師 NPO法人アーキペラゴ理事 森田 桂治 氏

1月18日（土）、観音寺市有明浜にて、一から学ぶ海ごみ講座を開催し、30名が受講しました。本講座は、海ごみの原因・現状・抱えている問題を知り、何ができるか考えることを通して海ごみや里海への関心を深めていただくことを目的とし、開催しました。



まず、観音寺市総合コミュニティセンターにて、グループごとに自己紹介を行い、海岸での活動について、注意事項などが説明されました。その後、有明浜に移動しました。

有明浜では、世界共通のごみ調査方法（icc）を用いて、どんなごみがどれくらい漂着しているか調査を行いました。講師より、特色ある漂着ごみとして、カキ養殖で使用される「まめ管」と呼ばれる小さなパイプや、広島県のカキ養殖において使用される長めのパイプなどがあると解説いただいた後、グループに分かれてごみを拾いながら調査を実施しました。有明浜は観光地ということもあり、比較的ごみは少ない状況でしたが、よく目を向けると、多くのごみが発見されました。



その後、コミュニティセンターに戻り、座学を実施しました。「海ごみはどこからやってくるのか?」「海ごみがあることで誰が困るか?」についてグループごとに話し合いを行ったり、現実に被害を受けている動物たちの状況を映像で学びました。また、動物たちの体に網が絡まって動けない状況を、自分たちで体験しました。



※動物の体に網が絡まって動けない状況を体験する様子

次に、マイクロプラスチックを分類する作業を行いました。マイクロプラスチックは、5ミリ以下のプラスチックのことで、歯磨き粉などに含まれるマイクロビーズや、プラスチック製品の原料であるレジンペレットなど元々小さい「一次マイクロプラスチック」、人工芝破片や、硬質プラスチック片など、自然環境の中で紫外線などの影響を受けて次第に小さくなった「二次マイクロプラスチック」といった種類があることを学びました。

非常に小さいマイクロプラスチックは、海に棲む生き物が誤って食べるなどして、体内に取り込まれるケースがあります。マイクロプラスチックは、PCBなど有害物質を吸着しやすいと言われており、体内に取り込まれた場合、有害物質が脂肪に溶け込んで蓄積されてしまうといった懸念もあるそうです。これらのことは、まだまだ研究段階で一概には言えませんが、これからは、商品を選択する私たち消費者が、どうすればプラスチックを減らせるか工夫をしていく必要があるようです。



最後に自分たちで何ができるかグループで話し合い、発表しました。「レジ袋やペットボトルの代わりにマイバッグやマイボトルを使う」、「ごみを拾う"拾活"を行う」などの意見が出ました。

講座を通して海ごみ問題について様々なことを学んだ参加者からは、「ただごみを拾うだけではなく、ごみの出てくる背景を学ぶことができ、有意義に感じた。」「今日学んだことをこれからは生かして活動を増やしたい。」「海ごみ問題はニュースなどで知っていたけど、子どもと一緒に実践的に学べたのがよかった。」という声が上がりました。